# 令和6年度デジタル田園都市国家構想総合戦略 検証経過 (令和6年度事業分)

- 1. 重要業績評価指標 (KPI) に関する実績報告 令和7年4月3日から令和7年4月26日まで (別紙に全事業の実績報告添付)
- 2. 第1回検証委員会 令和7年6月2日(月)

(ヒアリング対象事業の選定)

委員の互選により以下赤枠の事業について、担当課ヒアリングを行い事業評価することを 決定した。

※デジタル田園都市国家構想交付金事業については、検証が必須とされているため対象期間 について毎年度実施している。

取組番号	内容	担当課	委員 票数	備考
①-3	市内企業の新たな価値の創出 に向けた経営力・事業戦略の 強化	商工観光課	4	
3-1	U・I・Jターンや若者の市内定 着促進	企画経営課	3	
8-3	地域防災力の充実・強化	防災・地域安全課	2	1位1名、3位1名
③-3	デジタル技術を活用した観光 まちづくり	商工観光課	2	2位2名
<b>⑥</b> -3	文化・芸術を活用した地域活 性化	文化・スポーツ推進課 商工観光課	2	2位1名、3位1名

デジ田交付金事業 ⑥-2 直方北九州自転車道の活用 商工観光課 (レンタサイクル、広域イベントの開催等)

3. 第2回検証委員会 令和7年8月20日(水) (対象事業のヒアリング)

No	対象課	事業名	対象事業数
1	防災・地域安全課 防災安全係	⑧-3 地域防災力の充実・強化	1
2	商工観光課 商工観光係	⑥-2 直方北九州自転車道の活用(レンタ サイクル、広域イベントの開催等)	1
3	商工観光課 工業振興係	①-3 市内企業の新たな価値の創出に向けた経営力・事業戦略の強化	1
4	企画経営課 企画経営係	③-1U・I・Jターンや若者の市内定着促進	1

# 4. 総合戦略本部会議 令和7年10月15日(水) (評価結果の報告)

No	対象課	事業名	総合評 価結果
1	防災・地域安全課 防災安全係	⑧-3 地域防災力の充実・強化	В
2	商工観光課 商工観光係	⑥-2 直方北九州自転車道の活用(レンタサイクル、広域イベントの開催等)	С
3	商工観光課 工業振興係	①-3 市内企業の新たな価値の創出に向けた経営力・事業戦略の強化	А
4	企画経営課 企画経営係	③-1U・I・J ターンや若者の市内定着促進	В

各委員からの評価結果を以下の基準に基づきA~Dで評価を行った。

A評価:委員評価全てB以上、かつAが5割以上の事業

B評価:委員評価全てC以上、かつA・Bが6割以上の事業

C評価:委員評価 D が 5 割未満 D評価:委員評価 D が 5 割以上

		-	₩ H +X-H C	, , , , , ,	(女兵五七)川)				
取組番号		8-3	担当課係名	防災・地域安全課	防災・地域安全係	事業実施年度	R6年度実績		
取組名	地域防災	地域防災力の充実・強化							
取組內容	◆ デジタ 有を図る ◆ 「市公	パル技術を有効活用 。 公式LINE」や「つ	用し、避難所の開設やながる直方」の登録		災現場の現況やライフラインの状況等に B設置後の避難情報に関して、SNS等を活				
事業実施年度	ŕ	令和6年度 ~				単	独		
実施方法			補助		- 単独or交付金等				
			R6年度(千円)		予算状況の説明				
予算額・執行額	次组	(a)当初予算額 (b)予算現額 (c)增減額 (b-a) (d)繰越額 A (b+d) 执行済額 うち交付金充当額 F度繰越額 行率(B/A)	1,100 1,100 0 0 1,100 124 0 0 11.3%	予算現額 自主防災組織育成支援 新規設立団体からの申 +100千円×4団体+20	事業費補助金 1,100千円 事業費補助金 1,100千円…執行済額 請に備えて予算を満額計上 (500千F 千円×10団体分) していたが、新規 なり、執行残が多く発生した。	円×1団体(小学	校区単位)		
	番号		KPI内容		目標値		R6年度実績		
	自治区公民館組織等地域コミュニティで			での防災学習・訓練の参加者	400人/年		474		
KPI	数 ② 市HP(防災関連ページ			)の閲覧数	令和10年度 27,000回(※令和4年度13,609回)		8,718		
	<ul><li>3</li><li>4</li></ul>								
			主な取り組み		年度総	括			
取 組 の 検 証	備えの ・・校 ・・校 PTA・ ・・ で区 ・・ で区 ・・ で で で で で で で で で で で で で	重要性を周知した でとに防災訓練を まで自治会への作 にに地域防災会計 的団など地域で の強化を主題とし 時は防災・減災に 時には、情報共和	こ。 と実施するように傷動きかけしかできて 歳を開催し、自治会 に活動している多く した会議を行ってい に関する情報をホー 「ブラットフォーム	がまかけた。 ていなかったが、小学 会のほかに民生委員・ の団体を集めて、地域	① ・能登半島地震に派遣された職員が備えの大切さを周知した。 ・新入校区で新たに防災訓練を実施・令和7年1月下旬から各小学校区域災害対応について協議する場として催している。 ② ・災害情報ブラットフォームの運用つでも簡単に情報を入手できるように努めた。	画することができ 単位で地域団体等 、「地域防災会 日を開始しており	た。 と公的機関が 議」を順次開		
				<b>今後の七針</b>					

### 今後の方針

- ・出前講座や地域防災会議を通して、自助・共助の重要性を啓発し、自主防災組織の活性化や防災訓練の実施につなげる。
- ・各小学校区単位での地域防災会議を定期的に開催し、各校区における防災に関する意識向上を図りつつ、自主防災組織等の防災体制整備につなげ る。

### 2

- ・防災・減災に関する情報をより充実させるとともに、災害情報プラットフォームを多くの市民に周知する。
- ・各関係機関(河川事務所・警察署・福岡県土整備事務所・九州電力・直方ガス等)と連携を図り、プラットフォームの機能向上に努めていく。

検証委員の評価							
総合評価	委員	B評価	防災は目の前に危機がなくても、日頃からの備えが必要である。地域の組織を柔軟に立ち 上げて活動できるよう、小学校区単位に拘らずに運用をしていって欲しい。				
В	委員	C評価	住民とのコミュニケーション、情報発信の手法についてもう少しきめ細やかな工夫が必 要。				
	委員	B評価	・地域コミュニティの実情に応じて、日頃からどのような準備が必要か、いざ災害時にどのように動けば良いのか、市民に理解いただける活動として期待できる。 ・LINEによるコミュニケーションが活発になると、KPIに上げている市HPの閲覧数は重要視しなくて良くなるのでは。なお、情報発信の際は、災害関連情報が埋没せず、市民にとって理解できる、伝わるコミュニケーションに留意いただきたい。				
	委員	B評価	情報発信、広報周知について一定の活動成果をあげている。一方、関心の高低や取組などまだ課題はあるため、引き続きの方策強化、特に市民からの声の聞き取りが重要。				
	委員	C評価	予算の執行状況も低いため、災害級の大雨や地震が多発している昨今、更なる取組に期待 します。				
	委員	B評価	自主防災組織の立ち上げや地域防災会議の開催は、非常に大切な取り組み。 予算執行率は低いが、地域ごとに事情を考慮しながら、継続してほしい。 SNSを使った防災情報の発信に力を入れることで、市HPの閲覧数のアクセスにもつなが ると思う。				

- A: 着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B: 概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
- C:事業の改善が必要である。
- D: 抜本的な事業の改善が必要である。

			100 E 130 E	アリンクシート	(2,4,2,7,11)		
取組番号		6-2	担当課係名	商工観光課	商業観光係	事業実施年度	R6年度実績
取組名	直方北力	九州自転車道の活	5用(レンタサイク	7ル、広域イベントの開	催等)		
取組内容	◆ 平成領	気豊鉄道サイクルト	レインを活用し、浴	マサイクル)事業の導入を 分線自治体と連携した観光 直方北九州自転車道を活用			
事業実施年度	ŕ	介和6年度	~			その他な	を付金等
実施方法			委託		単独or交付金等		
			R6年度(千円)		予算状況の説明		
予算額・執行額	次年	予     (a) 当初予算額     3,520     【当初       算     (b) 予算現額     3,520     サイ       状     (c) 增減額 (b-a)     0     う       (d) 繰越額     0     0       A (b+d)     3,520       B 執行済額     3,500       a 5 7040 a 1481     250			ト委託料 3,520千円 (うち補助対象 アリングイベント参加料 1,500 ルル田園都市国家構想交付金 250 (2,000千円) - イベント参加料 (1 円	9千円 千円	
	番号		KPI内容		目標値		R6年度実績
	① 自転車走行イベントの参加者数				200人/年		101
KPI	2	平成筑豊鉄道サイ	クルトレインを活用し	たツーリズムの参加者数	200人/年		
	<ul><li>3</li><li>4</li></ul>						
			主な取り組み		年度総	括	
取 組 の 検 証	め、中間 河川敷 た。 参加者が 100名と 、3月9日 でポッ	間市役所までの自 キャンプ場でのB サイクリング及 が安全に走れる單 : した。令和7年3 日56名、合計103	国転車道往復コース BBQを楽しめるサース なび河川敷公園の利 他囲での参加者数記 8月8~9日の2日間 3名が参加した。 の活用については 応募者から抽選で	川活用を促進するた なのサイクリング及び イクリングイベントを 川用促進・普及に努め 設定として、募集数を 実施。3月8日は47名 は、平筑沿線の2市1町1 でご当地特産品が当た	①「子どものいる家族」をターゲッグループや高齢の方のグループなどさはうかがえた。参加申し込み数は加者満足度も非常に高かった(回答33.3%が「満足」と回答)。直方北の利活用促進事業としてイベントを形が最も市民の関心が高い形ではな②サイクルトレインツーリズムにつなく、複数の自治体を巡るということが要因と考えられる。	幅広い層が参加 は早い段階で設定 著の66.7%が「 た九州自転車道及 実施するのであった。 いかと考えられ いては想定より	し、関心の高 数に達し、参 非常に満足」 び河川敷公園 れば、今回の る。 も参加者が少
				今後の方針	<u> </u>		

### 今後の方針

①デジ田交付金も終了し、本来の目的である自転車道の活用促進という観点において、単発イベントのみで活用促進を図ることは難しいと考えられ る。レンタサイクル業者も採算が合わずにすべて撤退しており、サイクリングに関して新しい層を取り込んでいくには観光面のほか、健康増進などこ れまでとは別の切り口からも普及促進を図っていく必要があると考える。普及活動の一環としてサイクリングイベントを実施するのであれば、今回と 同様の形での実施がよい。

②サイクルトレインの活用についても、まずはサイクルトレインそのものの周知・広報を積極的に図ると同時に、ベースとなる集客コンテンツの作成 も検討する必要がある。

検証委員の評価						
総合評価	委員	C評価	せっかく素晴らしいインフラ(直方北九州自転車道)を活かせていない。KPIとしてイベント参加数に拘る必要もないのでは。むしろイベントではなくフリーで楽しんでいるサイクリストの満足度を高めていくべき。			
	委員	D評価	事業を進めることでどのような効果を期待するかについてを明確にし、もう一度あり方を 考えるべき。			
С	委員	C評価	・単発のイベントで認知を上げることも必要だが、継続・反復して利用してくれるサイクリスト向けにどのような取組が必要か再度検討する必要がある。 ・サイクルトレインについては、サイクリストにとって魅力ある事業として再構築するとともに、周知・広報の方法についても工夫されたい。			
	委員	C評価	イベントを強化するなどしないとジリ貧(利用する契機がなくなると考える) サイクリスト・イベント事業者との連携などで新しいアイデアを導入する必要がある			
	委員	C評価	予算の執行がほとんどなされたにも関わらず、参加者が少なかったこと(そもそもの設定を半分に減らしていること)と、BBQは魅力的であるかもしれないが、単発に終わり自転車道の活用促進が図られていないと感じました。 委員の皆様からの意見を取り入れていただき、更なる事業計画を立てていただければと期待します。			
	委員	B評価	サイクルトレインは、沿線の観光振興や、鉄道の利用促進の面からも、効果的だと考える。 る。 委員の指摘にあったように、周辺の観光地や飲食店などを盛り込んだモデルコースを提示することで、より集客が図れるのではないか。 サイクルイベントは利用者の満足度が高く、1回当たりの予算を抑えながら、開催頻度を上げられないか。			

A: 着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B: 概ね推進され、引き続き効果が期待できる。

C:事業の改善が必要である。

D: 抜本的な事業の改善が必要である。

取組番号		①-3	担当課係名	商工観光課	工業振興係	事業実施年度	R6年度実績
取組名	市内企業	業の新たな価値 <i>の</i>	D創出に向けた経営	     対・事業戦略の強化			
取組内容	◆ 業務の ◆ 自らの	Dデジタル化を支援 D能力や経験を生た	爱し、暗黙知の形式知 かした創業を積極的に	こ後押しするため、事業計	の経営管理層を育成する。 スモデルの構築を支援する。 画や商品開発、販売戦略等の包括的な支 、産・官・学・金による包括的な支援を		
事業実施年度	ŕ	分和6年度	~			単	
		#			単独or交付金等	単単	独 独
実施方法			委託				独
			R6年度(千円)		予算状況の説明	•	
予算額・執行額 KPI	次年	デジタル技術の		まちなか創業等支援補 予算現額 創業支援事業委託料 成長戦略策定ワークシ まちなか創業等支援補 を実施した企業数 経営力強化を支援した件数 話計画に基づく支援を行った	ョップ委託料 596千円	額 344千円	<b>R6年度実績</b> 6 5
	4	直鞍ビジネン	ス支援センターにおけ		300件/年		362
取組の検証	略 第 7 2 2 2 2 3 3 3 3 3 4 3 4 3 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	の考え方」「人自 クショップを開作 宮連携の実証事等 ステムの実装に耳 のITアドバイザー レ化なども支援し	り資本経営の必要性 並した。 養として、直方市内 取り組んだ。また、 -による経営相談を いた。	「経営者の役割」「戦 主」を分かりやすく学 3の2農園で環境確認・ 直鞍ビジネス支援セ 注通じて、予約管理の ・を開催するなど、創業	年度新 ①目標の2社に対し6社8名が参加し加者からは内容についても好評を得携しながら効果的な推進を図ってし ②産学官連携による取り組みや伴走者の経営力強化を図ることができた 評価が多数寄せられ、効果的な支援 ③目標の30件に対して38件の実績を 交流を図り、ネットワーク強化に多	、順調なスター 身でいる。引き続いく。 を型の支援を通じ こ。関係事業者か 長となっている。 を上げた。関係機	き関係者と連て、市内事業らは前向きな関と積極的に
_	制度を た。 ④通常の キルの	関係機関に周知し の経営相談に加え	ン、創業希望者への え、セミナーを開催	また、創業補助金の D支援を連携して行っ 単し、事業に必要なス レアップと新規相談者	年より多く活用され、市内での創業 ④目標の300件に対し362件の実績 のの、これまで支援してきた事業者 新規相談者の獲得には課題が残って	を上げた。目標値 首の継続的な支援	重を上回ったも

#### 今後の方針

①自社の成長戦略プランを描き、そのプランを実現するために高度なスキルを持つ副業人材、専門家をマッチングして、新たな価値を生み出して行く。

②デジタル化を進める上で、市内企業の取り組みを支援して、モデルケースを作り、横展開へと繋げる。

③創業支援ネットワーク会議を強化して、創業前の事業計画の作成段階から創業後の安定経営に至るまでのフォローアップを行い、創業者に応じた適 切な支援が受けられる体制を構築する。

④直鞍ビジネス支援センターは相談者の多くがリピーターであり、新規相談者の獲得が課題となっている。今後はアドバイザーの支援内容や支援後の 効果を情報発信することにより、新規相談者数を増やして行く。

検証委員の評価							
総合評価	委員	B評価	事業は適切に実施されている。KPIも順調にクリアしていることから、今後も継続的に実施していって欲しい。				
Α	委員	A評価	有効な取組だと考える。生産性向上などを今後は指標に入れて取組を発展させていただければと思う。				
	委員	A評価	・取組の内容として掲げた各事業については、市外のリソースも活用し必要な体制を取り 着実に実施されている。 ・最終的には目的である「新たな価値の創出」につながったか、何かしらの評価を検討さ れたい。				
	委員	A評価	課題を適切に識別し、ワークショップ、創業支援ネットワーク会議など効果のある方策を 打てている。 創業級のフォローなど一貫したサポートを志向しており、今後の効果創出も見込まれる。				
	委員	B評価	KPIの結果からも概ね推進されていると感じました。直方市でも引き続き、新規創業について支援を継続していただければと思います。特に④については新規の方の相談を増加させていただきたいと思います。				
	委員	B評価	いずれのKPIも目標値を上回っており、引き続き取り組んでほしい。 新規相談者の獲得が課題とあるが、相談ののべ数と合わせて、実数(事業者数)をKPI に盛り込んではどうか。				

A: 着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B: 概ね推進され、引き続き効果が期待できる。

 C:事業の改善が必要である。
 D:抜る

B: 概ね推進され、引き続き効果が期待でき D: 抜本的な事業の改善が必要である。

取組番号		3-1	担当課係名	企画経営課	企画経営係	事業実施年度	R6年度実績
取組名	U·I·J	ターンや若者の	市内定着促進	•			
取組内容	<ul><li>移住村</li></ul>	目談のためのWeb:	フォームを開設し、	相談内容(世帯構成や就業	な、市HPや外部移住支援サイト等を活 形態等)に応じた、個別対応サービスを をターゲットに、高校・大学等通学時に	行う。	
事業実施年度	4	令和6年度	~			その他な	を付金等
実施方法			補助		- 単独or交付金等		
			R6年度(千円)		予算状況の説明		
予算額・執行額	次:	(a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A (b+d) 執行予額 うち交付金充当額 年度繰越額 行率(B/A)	7,950 5,950 -2,000 0 5,950 5,743 2,000 0	予算現額 結婚新生活支援補助金 奨学金返還支援補助金 奨学金返還支援補助金	3,000千円、奨学金返還支援補助金 3,000千円…執行済み額 3,000千 2,950千円…執行済み額 2,743千 について、既卒者からの申請に備え 補助対象期間が短い新卒者からの申 った。	円(対象11世帯) 円(対象28名) て予算を満額計_	上(150千円×
	番号		KPI内容		目標値		R6年度実績
	① 奨学金返還支援制度を活用し、市			内に定着する若者の数	20人/年		15
KPI	② 転入超過数				令和10年度250人		
	3	3					
	4						
			主な取り組み		年度総括		
取 組 の 検 証	に、年間 た。 (5 ンのを行う ②結婚類 者の場で で	間最大15万円、i 5年間の定住が主 ジタルサイネーシ った。 新生活支援事業や 進を図った。また 直方市の魅力をF	最長3年間の奨学会 な条件)また、市 ジや商工会議所ニュ や奨学金返還支援 た、市町村PRイベ	卒業した若年層を対象 会返還支援事業を実施し 5公式HPやLINE、イオ ュースなどで制度の広 事業を実施し、市内定 ントに出展し「リアル 組むとともに、「移住	①令和6年度申請者15名のうち、直通動している方が9名おり、定住施がいる。 ②令和6年度は、43名の転出超過と年188名転入超過)R6市民意識調査続けたい)の割合は前回調査(R2)住理由は「自然環境に恵まれているの理由は「通勤や買物のなどの際のた。	策として一定のが なる厳しい結果。 でアンケートで( とほぼ同じ79% 」が最も多く、	、果に繋がって となった。(育 直方市に住み であった。定 非定住希望者

①令和5年度から申請者は増えているが目標値には達していないため、移住・定住を促進していくためにも、高校や大学など今後の対象者となりうる所 への制度紹介・周知を積極的に行い、制度利用者を増やしていく。

②イベントやWEBを活用した直方市の魅力の発信を継続していく。また、市民意識調査アンケートで非定住希望の多かった「通勤や買い物などの際の 交通が不便」という課題に対して、公共交通部署と連携し、国の「地方創生伴走支援制度」を活用し交通政策の見直しを行っている。

検証委員の評価							
総合評価	委員	B評価	転出超過は仕方がないのではないか。むしろ若者定着のための奨学金返還支援等、積極的に推進していくべきであろう。				
	委員	B評価	奨学金支援はありがたい取組だと思う。公共交通をどう確保するかについて今後検討いた だきたい。				
В	委員	B評価	・制度利用申請者の増加を図る更なる工夫が必要。制度の周知広報に加え、例えば市内の職の受け皿とのマッチングとの組合せといった事業等も検討されたい。 ・一方で、制度利用者が定住条件期間を過ぎたら出ていくと行ったことにならないよう、引き続きのフォローアップや情報提供に努め、利用者が申請者を呼ぶような状況を作る工夫も必要ではないか。				
	委員	C評価	・就業に関する施策との連動など、複合的な打ち手が必要。 ・市としての情報発信も必要。 ・データセンター誘致は契機となりうる。				
	委員	A評価	定住施策として一定効果を上げてあると感じました。転出超過については他の要因もあるようですので、5年経過後も住み続けてもらうための施策等もご検討いただき、若者の定着促進を推進していただきたいと思います。				
	委員	B評価	奨学金の返還支援は、民間企業でも広がっており、若者のニーズは強いと思う。 既に一定の効果が現れるなど、引き続き周知・広報に努め、取り組んでほしい。市内の公 共交通の弱さは、市民アンケートの通りだと感じる。コミュニティバスや乗り合いタク シー などの施策を強化するとともに、駅周辺を想定したコンパクトシティの方向性もあってい				

- A:着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B:概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
- C:事業の改善が必要である。
- D: 抜本的な事業の改善が必要である。